



## 地方公共団体の支出構造

京丹後市などの地方自治体の支出（歳出）は全て予算に計上する必要があるあります。歳出予算は、民生費や衛生費、土木費、教育費など、その行政目的ごとに分類した「目的別予算」と、人件費や扶助費、普通建設事業費など、その支出の性質ごとに分類した「性質別予算」の2つの種類により経理しています。

## 目的別の支出（歳出）予算

「目的別予算」は、地方自治体における行政サービスの水準や行政上の特色を知るのに役立ちます。また「性質別予算」は、地方自治体の財政構造、財政運営の特質を知るのに役立ちます。

8

図 財政課 (☎ 69-0160)

今回は「目的別予算」について説明します。

※「性質別予算」については、次号で説明します。

## 支出の約3割は民生費

左表は、6月補正後の平成24年度一般会計歳出予算を目的別に整理したもので、それぞれの予算額と予算総額に占める構成比などをまとめたものです。

本市の目的別予算のうち、構成比が最も大きいものは「民生費」で、予算全体の28・1割を占めています。予算額は88億7800万円で、障害者・高齢者などに対する福祉サービスや保育所運営などの福祉全般に関する経費を計上しています。

全国的に民生費の伸びは顕著で、本市でも少子高齢化の進行や生活保護世帯の増加などにより社会保障費が増加傾向にあり、財政上の大きな課題となっています。

次に大きいものは「公債費」で、予算額は54億4600万円。借金(市債)残高自体は年々減少しているものの、毎年度の返済額はすぐには減少しないため、予算全体の約6分の1(17・2割)を占めています。

合併以降、新規借入の抑制などに努めた結果、平成23年度末の借金残高は約411億円の見込み。合併時(平成15年度末)と比べて約57億円(12・2割)減少したことになります。

## 効率的な行財政運営に努力

市では、さまざまな分野で行政サービスを提供しています。複雑多様化する市民ニ

ズの増大に加え、国や京都府からの権限移譲による業務も増加傾向にあります。

厳しい財政状況が続く中で、市民の皆さんが求める安定的、継続的な行政サービスを提供するため、公平性や効率性、事業効果などを総合的に勘案しながら限られた予算を有効に活用し、効率的な行財政運営に最大限の努力をしています。

## 平成24年度一般会計歳出予算(6月補正後)の状況 (単位:百万円、%)

名称	主な内容	歳出予算額	
			構成比
議会費	議会運営、議員活動など	266	0.8
総務費	地域振興、公共交通、税務、戸籍など	4,095	13.0
民生費	社会福祉、児童福祉、生活保護など	8,878	28.1
衛生費	保健衛生、ごみ・し尿処理、環境対策など	3,613	11.4
労働費	就労支援、シルバー人材センター支援など	153	0.5
農林水産業費	農林水産業振興、有害鳥獣対策、漁港管理など	1,332	4.2
商工費	商工業振興、観光振興、産業・雇用支援、ジオパークなど	1,017	3.2
土木費	市道・河川管理、都市計画、公共下水道、公営住宅など	2,157	6.8
消防費	消防本部、消防団活動、災害対策など	1,256	4.0
教育費	学校教育、保育所・幼稚園、社会教育・体育、文化財など	3,349	10.6
災害復旧費	公共土木、農林水産業施設などの災害復旧	26	0.1
公債費	借金(市債)の返済金	5,446	17.2
予備費	緊急的な支出に備えるもの	31	0.1
	合計	31,619	100.0